

---

# **腰が痛い**

白虎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

腰が痛い

### 【Zコード】

N3101A

### 【作者名】

白虎

### 【あらすじ】

腰痛の、痛むしつゝも、泣きたいな

“どうしたんだ君？、

腰が痛い。

朝起きると腰が田茶苦茶痛い。昨日の夜寝る時は普通だったのに、一体何が起きたんでしょう僕の腰？

しかも酷くなったり落ち着いたり波のように不安定な痛みがビシビシ襲つて来る。

「いたつ…いたつ…いたたたたたたた…いでででででででででででつ！」

右足を踏み出すと痛くなる。足を地につけて一呼吸置くと落ち着く。でも左足を踏み出すと再び激痛。一呼吸置くとやっぱり落ち着く。

「イタチijoひこよ！？寄生虫ですか！？何かが入り込みました！？腰痛のラジオ体操かつづーの！……朝だけに」

その瞬間今まで一番のジックワーブが押し寄せせる。

「いででででででででででつ！…ごめんゆるして…つまんなかった！確かにつまんなかった！しかも誰もいないのにちょっとテレた！」

腰の痛みに必死で謝るとまた痛みが納まつた。ツツコツツも兼ねてるなんて気持ち悪いなあ。

とにかく小学校に行かなくては、無遅刻無欠席の皆勤賞がくだけちつてしまつ。

つーか小学生が腰痛つてヤバイなあ。

「夜の内に準備しといて良かつた。まだ2時間あるけど今之内に出ないと間に合わないよな」

少々うなだれ気味にランダセルに手を掛けると、また来た！奴だ！腰痛だ！

「ぐああああつーちよちよちよちよちよつー待て待て待て待てー！」

土下座みたいなポーズでその場に倒れ込むと、丁度オカンが部屋のドアを開けた。

「さつきから変な声出しちゃうつーへ？」

オカンはそれまで反抗期丸出しだった息子の従順な姿に死ぬ程戸惑つた。変な病氣かとも思った。まあ病氣みたいなもんなんだけどね。

しかしオカンはすぐに冷静になった。

「何こんな朝から土下座で出迎えるのよ？小遣いならアップしないわよ？」

このオカンは本気で俺の反抗期が終わったとでも思つてるのか、真っ最中だつつーの一その言葉でピークの時期に戻つたつーの！

心の中では怒り丸出しなのに腰の痛みが引かず、やつと出た言葉が、

「…………」

嗚呼、初恋の子に嫌われた時の心の痛みを思い出した。

「…………?何言つてんのアンタは?」

その言葉貴様にせつくりそのまま返してくれるつ……

その時ようやく痛みが引き始めた。

「ああーへそつー・腰が痛いの」・し・が!

「ああ、腰痛? 小学生が腰痛なんて気持ち悪いわねえ」

「せつき自分で思つたわ! つーか実の息子に気持ち悪いって何! ?

「アンタ拾つた子だから実の息子じゃないわよ」

「どんだけでかいカミングアウトだ! ? 小学生だよ、僕小学生だよ! もうトラウマ決定だよ、反抗期にこんな事言われたらこれから的人生親と仲良くなれるわけないし光輝く確かな道筋も無いわ

でも僕は強い子だからそんな事気にせず学校に行く準備をし、玄関へ急いだ。

「『』飯はつ?」

「こらかあアアアー!」

家の外に出ると雪が降っていた。いつもならしゃしゃ回っている所だが、痛みのせいでのんな余裕なんかある訳がない。

「へうう、泣きてえ」

でも僕は泣かなかつた。何故なら僕は強い子だから。

するとその時前から同級生の華恵が走つて來た。

「あ、ねえ、家のペス見なかつた？起きたら首輪が外れててどこに行つちゃつたみたいで」

「ペス？見てないよ

「やつかあ、ど行つちやつたんだろう……」

すぐ悲しそうな顔をしていた。強い子の僕としては元気づけてあげなければ。しかしその時再び痛みが走つた。

「いたいたいたいたいたつ！」

「えー？いたー？ビー？」

くそ、こいつもバカなのか！それとも僕の頭が良すぎるだけなんか！

「いや……違う……腰……いででででででででで……」

「違う！？嘘ついたの！？最低！」

華恵はバチンと音を立て、僕の頬に紅葉マークをつけて走って行ってしまった。腰の痛みが増したのは言つまでも無い。

その後も自転車に突つ込まれたり、僕より小さい子にぶつかられたり、ペスに腰噛まれたり、あ、ペスいたよー。そんなこんなで学校にたどり着いた。

朝の会が始まり、先生が話し始める。

「今日は体育があります。体操着忘れた人いますか?」

あ、しまった忘れた。

「忘れた人は、今から取りに帰つてください」

後で聞いたらその時の僕は何かガタガタしてて右拳をかたく握り、薄ら笑いを浮かべ、鬼の形相で先生を睨みつけ、

「上等だ」

と、呟いていたそうです。

(後書き)

往復で4時間がかりましたとさ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3101a/>

---

腰が痛い

2010年10月26日09時24分発行